



2020年12月24日号

ふるさと

グループホームあじさい園

「千の風になって」 〈後編〉

日本語訳・作曲をされた新井満氏は、英語原詩「1000の風」と数年かけて向き合い以下のような物語としてうらえ、「千の風になって」がうまれました。

昔々、ネイティブアメリカンの集落に、一人の少年と一人の少女がいた。少年はウパン(雪)少女はレイラ(風)、弓と馬が名人のウパンと、うたと踊りの名手のレイラは、幼なじみ、やがて二人は恋をして結婚。レイラはその頃から健康を外し、かろうじて赤んぼを出産した。レイラの健康はさらに悪化、ウパンは必死で看病を続けるも、レイラは帰らぬ人となった。ウパンは号泣、叫び声は岩を砕き、樹木を根こそぎ倒し、河をせきとめ、大地にとどろきわたった。墓地にレイラのなきがらを葬ると、ウパンは生きる気力がなくなった。最愛の妻を失い、生きていく意味などないのだと。

その時、ウパンのうでの中で赤ん坊が笑った。ウパンは家の中の整理をして死ぬ時を待った。するとレイラのベッドの下から一通の手紙、レイラが最期の力をふりしぼって書いた一篇の詩があった。ウパンが後を追わないように祈りの手紙であった。

「私のお墓の前で泣かないで下さい。そこに私はいません。死んでなんかいません。千の風に、千の風になって、あの大きな空を吹きわたっています。」

レイラの書き残した詩を読んでウパンははっと我に返った。レイラは死んではない。ウパンは立ちあがり、あらためて周囲を見まわした。見慣れた風景が全く新しいものに見えてきた。吹きわたる風に向かってウパンはいつの間にか妻の名前を呼んでいた。「レイラ・・・」

気がつけば風にも光にも山の雪にも河の流れにも、空とぶ鳥にも野に咲く小さな花びらにも、レイラのいぶきを感じるではないか。そして何よりベッドで静かな寝息をたてて眠っている娘の寝顔にレイラを感じるではないか。ウパンはさどった。この娘はレイラの生まれかわりだったのか。ウパンはベッドから娘を抱きあげると戸外に出た。外は満天の星、ウパンは夜空を見上げながらつぶやいた。「明日からこの娘といっしょに生きてゆこう」

11月22日あじさい園ミニ秋祭り

新型コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催となりましたが本年も皆様に秋祭りを楽しんでいただけました。

綿菓子やたこ焼きの屋台、ミニゲームコーナーでは景品を用意し瞳に闘志を宿しながらプレイされておられました。

来年こそはご家族様・地域の皆様方にもお越しいただける事を切に願っております。

その際はお力添え願いますよう何卒お願い申し上げます。



お誕生日会

西田郭代様・飯島キヌエ様の誕生日会を開催し、ケーキとコーヒーで団楽の時間を過ごしていただきました。「来年も祝ってや!」とご満悦の様子でした。

【挨拶】
本年もお世話になり誠にありがとうございます。ごさいいます。
新型コロナウイルスの影響で面会制限などご心配とご迷惑をお掛け致しましたが、来年は入居者様・ご家族様にとって幸多い一年となりますようお願い申し上げます。
職員一同

12月の行事予定

20日(日)お誕生日会&クリスマス会

27日(日)忘年会

※塩田医師の定期往診もあります。

10/14日外部評価をうけました。

近々結果も公表いたします。

あじさい園のホームページをご覧ください。



昼食会 季節の和風弁当

今回は【あづまケータリング】のお弁当を注文し豪華なおかずを堪能していただきました。「あづまさんやったら次は寿司やな!」とリクエストをされつつペロリと完食して下さいました。

